

## 人と防災未来センター 見学記 (第2稿)

とき：平成30年10月27日 参加者：8名

神戸市中央区脇浜にある「人と防災未来センター」は1995年の阪神・淡路大震災から得た貴重な教訓を世界共有の財産として後世に継承し、国内外の地震災害による被害軽減に貢献すること、および生命の尊さ共生の大切さを世界に発信することを目的に2002年に西館が、翌2003年に東館が開設されました。

センターには調査研究機関が置かれ、大規模災害発生時に適切な情報提供を行い、大規模災害および防災に関する資料の収集・蓄積・体系化・データベース化を継続して行うと同時に、災害対策にかかるエキスパートの育成を行っています。またアジア防災センターなどの国際研究機関を集約することにより、国際的な防災・人道支援の拠点形成を図っています。今回は展示施設のみの見学です。

見学当日はJR灘駅・阪神岩屋駅の2か所に分かれて集合し、センターの玄関前に10時半に全員集合しました。

入館料はシニア300円、大人600円ですが、JAF会員割引が上乗せされて8人合計は2700円とお手軽でした。

始めに地震関連の西館へ。被災ジオラマを通り抜けて、シアター映像室に入り、高架道路や鉄道・市役所・病院など公共施設が大きく破壊されるなど、当時の被災状況を見ました。次の部屋では姉を亡くした少女のナレーションで住宅・商店街など街中の破壊・火災状況が放映され、思わず涙が流れました。

次に一般展示室を巡りました。筆者が過去に訪れたときは、展示室の随所にボランティアの被災経験者が語り部としておられ直接体験談をお聞きしましたが、経験者の高齢化のためか、今回は全て映像化され、画面で体験談を聞きました。

東館は初めて入りましたが、災害全般の展示がされており、特に今夏完成した「津波避難体験コーナー」では、参加者が実際に歩行装置に乗って歩く体験をしました。又、今後心配される南海トラフ地震のシミュレーション等の展示もあり防災への心構えを確認できる貴重な時間でした。

東西合わせて約2時間館内をめぐり、東館1階のレストランに行ったところ、当日は中庭で市関連の防災イベント中で休業。止む無く阪神岩屋駅近くのロイヤルホストで懇談を兼ねた昼食をとりました。

参加者の半数が当時の被災者であり復旧活動者であることもあって、熱い思いの懇談会となりました。今日の神戸市の復興ぶりを見ると、とても23年前の大災害は想像できず、災害を知らない若い世代に継承するために当センターの存在意義は今後も大きいものと思います。

なお今回の見学会も一般会員の参加が少なく、見学対象や見学時期・広報について再検討すべきと感じました。(文責：行事委員 東郷)

